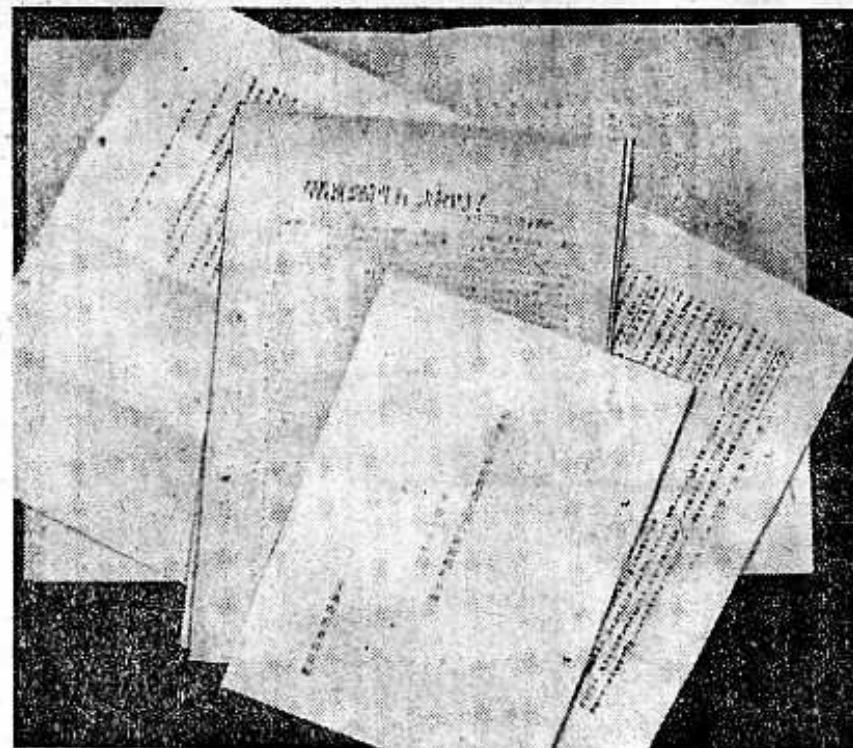


東教大選舉



学長選を前に、現執行部を非難して教職員にばらまかれた怪文書



学長選で再び教官の対立を暴露した東京教育大学

教官の対立ドロ沼に

「さういふソウトカニイタリ」、「左翼陣営にチャホナリテ西園無能な大臣入」とこんな怪文書が、教官の名前でばらまかれている。教官同士のがみ合いで争いが起つた東京教育大学（宮島真行学長代行）での話。二十四、二十五日の学長選を前にして、筑波移転をめぐる対立が再び表面化、相手を攻撃する泥は水がついている。

怪文書をばらまく きょうか ら選挙 筑波移転の反対派

怪文書をばらまく

國大は四十二年、筑波移転の決定をめぐって、大學執行部と文部省が正面から対立。全共闘系学生も吉田沼の紛糾がついだ。昨年一月、当時知事部長の吉田沼氏が学長代行に就任。同七月、議論会は筑波移転を正面に決定し、反対派の文部省も十月中旬に決

定問題に着手。いちおう吉田沼は表面的には「賛成」したが、実際には「反対」した。吉田沼は二年間空ひたたか学長を務めた。この六日、選考公示などに、ところが、この公示を機に「吉田沼返しのチヤンス」とばかり称された反対派は吉田沼の勇力を讃嘆対抗してみられる反対派は吉田沼の猛烈な運動がはじまつた。また、筑波移転はわざわざで、そのためにか

「筑波移転と中教審大会の設立が結婚で一致している。」
「筑波移転と中教審大会の設立は、大学を構成するものだ」「筑波移転はわざわざで、そのためにかけた」「おおじ、しめつけ。弱い

川正一体育学部長は「バカバカしい」とお詫びしない。怪文書といつても出所は反対派の教官たるにいたしてある。
怪文書について検討会議の決議は、日本語版印刷。その内容はいずれも鮮烈な措言で書かれており、それが「筑波移転と中教審大会の設立は、大学を構成するものだ」「筑波移転はわざわざで、そのためにかけた」「おおじ、しめつけ。弱い

川正一体育学部長は「バカバカしい」とお詫びしない。怪文書といつても出所は反対派の教官たるにいたしてある。
怪文書について検討会議の決議は、日本語版印刷。その内容はいずれも鮮烈な措言で書かれており、それが「筑波移転と中教審大会の設立は、大学を構成するものだ」「筑波移転はわざわざで、そのためにかけた」「おおじ、しめつけ。弱い

内閣は「日本語の不満が文書の形で出たんだと思う。当然ですね。学内にこんなに反対が強いくことで誰もが方に有利」と語る。
東京学長選は二十四日、教職員五百人が五人の候補を選び、二十五日、教職員三百九十一人が五人の候補を選ぶ。且下下局評は吉田沼代行と林孝三・代理

先生の見せしめにする執行部など。

また、学風刷新委員会は「東教大の再選をめざす会」「東教大の再選をめざす会」「東教大の再選をめざす会」で三千六選にのぼるという。